

令和2年度第4回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録

日 時 令和2年6月24日（水）14時00分～15時55分

場 所 S-Port 3階大会議室

出席者 赤塚、出野、岩崎、大石、栗村、榊、鳥居、野田、晝馬、細井の各委員
石井、丹沢、木村、東郷、池田、大場、手島、寺村、笹原の各委員

陪席者 小谷、河合、白井の各副学長、鈴木監事、青木学長補佐

議事に先立ち、議長から、本年度から新たに就任した委員について紹介があり、委員からご挨拶があった。

I 前回議事録の承認について

令和2年度第1回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録（案）、令和2年度第2回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録（案）及び令和2年度第3回国立大学法人静岡大学経営協議会議事録（案）を原案どおり承認した。

また、議長から、前回会議において学外委員からいただいたご意見に対するその後の状況等について報告があった。

II 審議事項

1 新法人設立・大学再編について

議長から、新法人設立・大学再編について、これまでの経緯、合意書締結後の会議等の開催状況（資料1-1）、4月30日に開催した第18回連携協議会（資料1-2）、5月28日に開催した第19回連携協議会（資料1-3）、4月28日から6月4日に書面による意見提出を行った第2回静岡大学将来構想協議会等の報告があり、意見交換を行った。

（学外委員から出された主な意見）

〔⊗：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊗： 浜松地区大学と静岡地区大学が目指すところの具体性が違うと感じている。浜松地区大学は医工連携や医工情など分かり易く、将来の姿が見えてくるが、静岡地区大学は構想としては良いが、具体性に欠けており、静岡市との将来構想協議会等でも、今後どうなっていくのかという不安に繋がっていると感じている。目指すことを具体的に描くことが必要である。

△： 静岡キャンパスは、思い切った分野の転換が必要な時期にきている。教員養成学部が今後人口減により学部の規模が小さくなること、人文社会科学部を中心とした文系分野についても、文理融合的な新しい人材養成に乗り出していかなければならない。「未来社会デザイン機構」を立ち上げ、これからの社会のあり方をデザインして行く上で必要となる研究分野の開拓や人材養成の方向性を示し、分野の転換を推し進めようとしている点が静岡の特徴である。

⊗： 2つの大学に再編されたとしても、一法人であるメリットをどこまで活かせるということが鍵になると考える。例えば、MITやミュンヘン工科

大学は工学系の大学でありながら、人文系が非常にしっかりしていて、経済学でノーベル賞受賞者を出しているという側面もある。一法人に医学部が入ることによって 静岡地区大学にも様々な面で大きな影響を及ぼす可能性があると考えます。2つの大学に再編される側面と一法人となる側面について意見をお聞きしたい。

△： これまでは同じ大学の中でも東西キャンパスの教育・研究面での連携はなかなか進んで来なかったのが現状だが、再編統合後は法人経営という視点から、地理的な距離を言い訳とせず分野を越えた連携に積極的に取り組んで行きたい。例えば、新型コロナウイルス感染症についても、医学部と静岡キャンパスの社会政策系の分野との連携は不可欠となっている。

⊕： 静岡大学を目指す高校生の立場から考えた場合、どういう志を持った学生を集めようとしているのか見えてこない。それが、静岡地区のそこはかとならない不安になっているのではないかと。一步踏み込んで具体性を示したらよいのではないかと。

⊖： 大学の再編というとき、漠然とした医学部とか工学部とかを念頭に置いた議論になっているように思う。現実の大学は、生け花の剣山のように細くて高いピークがたくさんあり、医学の中にも工学の中にも、静岡地区にもそれはある。これから作っていくものをいかに魅力的な組み合わせにするのか、ピークの高いものをどのように組み合わせ社会にアピールするのか、対外的な見せ方の問題でもあり、既存のものを組み合わせ、新しい分野の可能性を示す、そういう視点での説明が求められているのだと考える。

△： これまでの大学の弱点は高いピーク間の横の連携が取れてこなかったことであり、これは浜松地区についても光分野のような実績を積んできた領域を除けば同じような状況であり、今後相当な努力が必要となる。静岡キャンパスについては「未来社会デザイン機構」で具体的な構想を検討しているため、できるだけ外に示していくことがスタートになると考えている。

2 平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間(平成28～31事業年度)に係る業務の実績に関する報告書について

河合副学長から、平成31事業年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間(平成28～31事業年度)に係る業務の実績に関する報告書について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

3 中期目標の達成状況報告書について

河合副学長から、中期目標の達成状況報告書について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

4 学部・研究科等の現況調査表について

河合副学長から、学部・研究科等の現況調査表について、資料4により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

5 静岡大学入学検定料の特別措置に関する規則の制定について

丹沢委員から、静岡大学入学検定料の特別措置に関する規則の制定について、資料5により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕： 他大学にも同様の規定があるのか。また、国からの補助や支援はあるか。

△： 他大学にも同様の規定はある。国からの補助や支援は特にない。

6 地域調整手当の一部改正について

手島委員から、地域調整手当の一部改正について、資料6により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

III 報告事項

1 次期静岡大学長の選考に係る基準について

榊委員（学長選考会議議長）から、次期静岡大学長の選考に係る基準について、資料7により報告があった。

2 令和元年度卒業・修了者の進路状況について

寺村委員から、令和元年度卒業・修了者の進路状況（5月1日現在）について、資料8により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕： 学部生、修士学生の就職率は上がっているが、博士号取得者と産業界とのミスマッチがまだ存在しており、就職が厳しいと認識しているが、長期的に見たときに、特に理工系の博士課程の学生について、どのような取り組みがされているのか。

△： 文部科学省の補助事業「ポストドクター・キャリア開発事業」の終了後も、大学独自でポストドクターのキャリア支援を継続して行っている。

⊕： 日本の国際競争力を考えると、あらゆる大学が努力していく必要があると考えるため、引き続きお願いしたい。

△： 一部の分野でオーバードクターが多いため、狭い意味での専門分野に縛られることなく幅広い業種の企業等のインターンシップに参加し、キャリアを積んでもらうという取り組みを続けている。

3 令和元年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について

東郷委員から、令和元年度監事業務監査改善要望事項に対する役員会の基本方針について、資料9により報告があった。

4 新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について

議長から、新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について、資料10により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

[⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等]

⊕： 学生のメンタル面でのフォローはいかがか。

△： 学生相談室及び修学サポート室において、電話、電子メール及びZoom等を使用して相談に応じている。

△： 担任制を導入しており、個々の学生と連絡を取っている。また新入生セミナーは可能な限り対面授業とし、学生の顔を見て状況を把握している。

⊕： 引き続き、学生のサポートをお願いしたい。

5 創立70周年記念誌「静岡大学の10年 2009-2019」の発行について

寺村委員から、創立70周年記念誌「静岡大学の10年 2009-2019」の発行について、席上配布資料により報告があった。

IV その他

1 施設整備事業の契約内容公表について

手島委員から、施設整備事業の契約内容公表について、資料11により案内があった。

2 研究業績説明書について

河合副学長から、研究業績説明書について、資料12により特に顕著な論文の説明があった。

3 令和元年度決算日程(案)について

手島委員から、令和元年度決算日程(案)について、資料13により、新型コロナウイルス感染拡大防止のため決算作業が遅れており、7月にメール審議をお願いしたいとの案内があった。

4 令和3年度概算要求について

手島委員から、令和3年度概算要求について、資料14により、新型コロナウイルス感染症のため締切りが延長されたため、後日、メール審議をお願いしたいとの案内があった。

5 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料により紹介があった。

以上